|  |  |
| --- | --- |
|  | 中曽根康弘閣下 追悼文 　本年５月１日に幕開けした令和元年も間もなき終わろうとしています。本年も、戦後日本を支えてきた多くの方々が次々と逝去されました。  　皆様と共に衷心よりご哀悼申し上げます。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　**ワード形式はこちら⇒** |

　　一昨日、11月29日午後1時のＴＶ報道で中曽根元総理の訃報を知った。

その瞬間から、中曽根先生に関連した小生の心の中の波紋は、広がるばかりで、  
予定のスケジュールが手につかない。このような状況の中で、中曽根先生のご  
逝去について、恩師とお話をした。90歳を超えた師は、「人生は出会いだ」  
と[自分の人生に影響を与えた人物をついてお話された](http://www.owaki.info/Nakasonetsuito/nakasonecyu.html)。

　　私の心に衝撃を与えた中曽根総理とは何であったのか、心に浮かんでくる  
数々の波紋を整理し、まとめておくことは、中曽根先生への供養にもなると思い、  
今、筆を執っている。

　中曽根先生は、我が国の戦後政治を導き、今日の日本を築き上げた偉大な政治家  
であった。そのことは、与・野党を超えて誰しもが認めるところである。国家のために  
身命を投げ打って尽くした人物、正に国士である。その根幹は、「日本は不沈空母  
である。」との発言にも見られるように、第2次大戦中、海軍少佐として戦い、多く  
sa の戦友を失い、国土の荒廃を目のあたりして、再興に取り組んで来た士の実体験  
から生まれた確固たるものであった。[[1]](#endnote-1)[i]

　士は、また、稀に見る文士でもあった。日本文化の本質とその伝統を追求し、   
敗戦により失われ行く民族的伝統を再生することに精誠を尽くされた。士は、精神  
的には米国に優るとも劣らない日本文化が、軍国主義再来を恐れる占領軍によって  
根絶されようとする占領政策に抗して戦った憂国の士でもあった。憲法改正の叫び  
や国際日本文化研究所の創設もそのほとばしりであったと言えよう。  
  
　また、士は、国家にとって科学技術の重要性を熟知していた人でもあった。

これは先の太平洋戦争において日本が米国に負けたのは、科学技術力の格差にある  
ことを、身をもって敗戦の体験をしたことによるものであろう。小生1970年代末、  
「10年後のナショナル・ゴールプロジェクト」を3000人の有識者の驥尾に伏して  
手伝ったことがある。 [[2]](#endnote-2)[ii]   
　その最終報告書『国際化時代と日本』（790頁）を読まれた士は、「第4章世界  
平和のための科学技術開発ついて話を聞きたい。」とおっしゃった。そのことだけ  
見ても 文化立国、政治立国とともに科学立国、経済発展の原動力である科学技術の  
振興に特別な関心を寄せられていたかが分かる。

　氏は、被爆国の日本であるにもかかわらず、原子力基本法を草案し、原発導入を  
推進された。しかし、不幸なことに、原子力のエネルギーの誕生は、当時の劣悪な   
社会的状況から、安全性を度外視した破壊力最大を求める核兵器の解産であった。  
まさにこれは鬼子であり、パンドラの箱を開けたようなものであった。次々に災難  
がを降り注いできた。原子力の平和利用と銘打って、いくら安全の衣で覆っても、  
あちこちからボロが出て人類社会を悩ませている。

　世界最初に原子炉を造ったU.ウイグナー博士は「ウラン固定燃料ではだめで、  
トリウム熔融塩炉こそ安全原発ある。」と当初から予言していた。西堀栄三郎、  
茅誠司、古川和男氏らの遺志を継いで、有志は、福島第一原発で亡くなった吉田  
昌郎氏の追悼を続ける傍ら、トリウム熔融塩炉プロジェクトを推進、日本でも  
昨年閣議決定され、本年、ようやく調査費が付くようになった。[[3]](#endnote-3)[iii]

　高崎市は、中曽根先生の御膝元である。数年前、某財界人から[創造学園大学の  
再生](http://www.e-gci.org/horikoshigakuen/fudosan.html)の依頼があり、地元の後輩等の協力を得て、再建に取り組んだ。中曽根先生  
にも親書をしたため、下村文部大臣にも松田氏と陳情にお伺いした。日本の  
大学総長陣の厳しい意見を背に、韓国へも飛び、韓国の大学経営者らと折衝し、  
日韓協力大学構想をも検討した。力及ばず、大学の跡地は今や、介護施設になって  
いる。小生が最後までこれに固執したのは、「人材輩出の地、群馬、特に中曽根先生の  
御膝下である高崎の地を日本文化を守り、世界へ発信する人材養成の拠点にしたい！」  
との至情からであった。   
　この項は、小生の心の波紋であっても「中曽根先生の供養」にはならないかも知   
れない。只、自ら安定した職業を投げ打って、誰もが敬遠する厳しい大学再建の火中  
の栗を拾い、郷土のために貢献した、故、松田治男君の供養にも なればと思い、  
あえて拙文を奏上申し上げた次第である。 [[4]](#endnote-4)[iv]    
  
　ナショナル・ゴール研究の成果が自民党政府により高く評価され、70年代から  
80年代、10年以上に渡り、自民党政府の政策のお手伝いをした。特に中曽根総理   
の在任時代は、その提言のいくつかは政策として実行された。その後ラトガース   
大学で総理が記念講演された折には、「大変お世話になりました。」との思いがけ  
ないお礼の言葉を頂いた。　在米中もっとも印象的であったことは、中曽根総理   
のワシントンでのスピーチに対して米国の有識者達から高い評価を聞いたことで   
ある。それは中曽根総理が自分の信念、思想を英語で語ったことで、中曽根氏を   
通じて初めて日本の素顔に触れた感じを米国国民が受けてからであろう。   
　　当時、毎週のように官邸にタイムリーな政策提言書を届けていたが、「ゴルフに  
行かれる折には、必ず月刊『知識』と政策提言書をバックに入れてお出かけです。」  
と秘書官から伺った。レーガン大統領が毎朝『ワシントンタイムス』を読むこと  
から始めたということと連動して思い起こされる。[[5]](#endnote-5)[v]  
  
　　岸信介先生がお住いの御殿場に行くことがしばしばあった。新年のご挨拶に  
お伺いした折に、岸先生は滔々と話し始められた。その中に「中曽根が日米関係を  
重視する限り、私は、中曽根を支持する。」とおっしゃった。そのカセットテープを  
総理の秘書官に届けたら「総理は大変喜ばれていました。」とお礼の言葉を頂いた。  
当時、「田中曽根内閣」と揶揄され弱小派閥であった中曽根総理にとっては強い嬉  
しい激励になったことは充分理解できる。　    
  
　2000年代、（株）日本総研新谷所長等と[日本の未来構想を描くシンクタンク活動  
を展開](http://www.miraikoso.org/)した。その成果の一つである[「国際ボアンティア制度の国策化」](http://www.owaki.info/Nakasonetsuito/国際ボランティア制度を国策に！)の提言を  
中曽根先生にご報告する機会があった。先生は満面笑顔を浮かべながら励ましの  
言葉を下さった。　[ⅵ]

　総じて小生達の歩みは、日本と世界の未来に向けて渾身の力を注がれた中曽根  
先生を支援し、原子力問題等、その負を埋め、再生に努めた半生であったと思う。

　中曽根先生との最後の出会いは新橋演武場での「仮名手本忠臣蔵」の5時間余   
の鑑賞、幕間での歓談であった。[「東京オリンピックへの提言」](http://www.owaki.info/shiryo/nakasone/nakaone.html)は最後の先生への   
親書になってしまった。晩年の中曽根先生に付き添っていた秘書から「親父にお  
手紙は渡しましたが、最近だんだん読む気力も薄れ、返事は難しいと思う。」と  
伺い、「いつまでも中曽根先生に頼ってばかりには居られない」との思いを新た   
にしたことを思い起こす。[[6]](#endnote-6)[ⅶ]

　中曽根先生は、終生、勉学の人であり、自己修練に努めた人であった。総理の   
座に座って晩節を汚す人も居る中、総理になっても努力を怠らず、持てる才能を   
十二分に発揮され、その位置にふさわしい賞賛を受け続けた総理であった。

「巨星、落つ！」と某代議士が慨嘆するように、中曽根先生のご逝去は、我が国に  
とっても、また小生にとっても大きな衝撃であった。中曽根先生の訃報に接して、  
自分の心に生じた波紋を、このように記述してみて、心が多少和らいだような気持  
ちになった。

　中曽根先生のご冥福を衷心よりお祈り申しあげます。

令和元年１２月１日　　　　大脇 準一郎　拝

**注 一覧表**

1. [i] 　　[**「くれてなお命の限り蝉しぐれ」**](https://www3.nhk.or.jp/news/html/20191129/k10012195791000.html) [↑](#endnote-ref-1)
2. [ii] 　[**『国際化時代と日本』**](http://www.owaki.info/rireki/mokuji2.html)（ナショナル・ゴール報告書） [↑](#endnote-ref-2)
3. [iii]  [**原発安全革命国際フォーラム**](http://www.owaki.info/etc/msr20180614/2msr.html)[**「トリウム原発は第3の道と成りうるか？**」](http://www.owaki.info/Thorium/atomic.html) [↑](#endnote-ref-3)
4. [iv] 2013.[12.4 **堀越学園の今後**](http://www.e-gci.org/horikoshigakuen/fudosan.html) [↑](#endnote-ref-4)
5. [v] [**政策提言**](http://mnet.upf.cc/seigaku/2seigaku.html)　　[**国際ボランティア制度を国策に！**](http://www.owaki.info/teigen/Volunteer/kokusaku.html)  
   〔ⅵ］[保岡 興治先生](http://www.yasuoka.org/profile/)、[金容雲先生](http://www.miraikoso.org/before/36miraikimyw/DrKimcomment.doc)　[「日韓・アジアの未来構想」](http://www.miraikoso.org/before/36miraikimyw/kimmirai.html)　　[日韓交流文化会議提言](https://www.jkcf.or.jp/projects/category/kaigi/?) [↑](#endnote-ref-5)
6. [ⅶ] 　[**中曽根元総理の思い出**](http://www.owaki.info/Nakasonetsuito/omoide_naka.html)　　[**【中曽根元総理への親書】**](http://www.owaki.info/olympic/2020.html)

   **＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝**  
   　　**大脇総合研究所:** [**junowaki@able.ocn.ne.jp**](mailto:junowaki@able.ocn.ne.jp)**〒180-0011 武蔵野市八幡町3-8-3-201**  **Cel:080-3350-0021 【カカオ,Line,Skype】junowaki**   
   　 **【大脇HP】**[**http://www.owaki.info**](http://www.owaki.info/)　　 **【連絡版】** [**http://www.owaki.info/etc/etc.html**](http://www.owaki.info/etc/etc.html) [↑](#endnote-ref-6)